



シビルまちづくりステーション 会報 第8号

目次

会報第8号の発行にあたって

花村 義久 1

1、平成26年度の総会報告

池田 昭一 2

2、液状化対策プロジェクト事業報告(平成 25 年度)

池畑 輝男 4

3、西日本支部活動写真集

森川 勝仁 5

4、関東での芝生化支援事業報告

廣田 治 7

5、エコメッセ 2013in ちば出展報告

斎藤 清 8

6、橋百選:都道府県別に纏めた橋群・更に充実させましょう!

日浦 明 9

7、出前講座とCMS 連続セミナー

馬場先 勝弘 11

8、建設系NPOの連携が進展

皆川 勝 12

9、ITの活用 ~個人用のコンピュータあれこれ~

小林 明 14

編集にあたって

池田 昭一 15

平成 26 年 9 月 1 日

会報第8号の発行にあたって

花村 義久

前回の会報第7号は創立10周年記念号でした。第6号は特集「東日本の被災地救援・復旧復興支援活動」、そして第5号は特集「校庭・園庭の芝生化」、すべてがボリュームといい内容といい大変立派なものでした。

創立10周年を迎え今後のあり方を話し合う中で、もう一度創立時の精神に戻り会員皆が参加出来る活動、組織運営をしようと云うことになり、本年度の活動方針にもその点が盛り込まれました。

会報はそれを実現する上で重要な役割を果たします。そのような観点から会報も会員の情報の共有化、情報交換の場として発行回数を増やしていきたいと考えます。従来の会報はともすれば頑張りすぎて身軽さに欠ける点がありましたので、もう少し日常的な気軽さや楽しさが加わって来ると良いのではないかと思います。

今回の会報も立派なものになりました。この一年で活動の成果も上がり、また新たな展開もありました。いろいろな報告などから全体の動きを知ることが出来ますので、楽しんで読み活動に生かして頂けたら幸いです。

最後に、会報の執筆、編集にご尽力下さった方々に心より感謝申し上げます。

平成26年度通常総会は5月17日(土)13時から、千代田区和泉橋区民館会議室で開催されました。花村理事長の挨拶後、議事に進み、「第1号議案 平成25年度事業報告の件」、「第2号議案 平成25年度収支決算報告、監査報告の件」、「第3号議案 平成26年度の事業計画の件」、「第4号議案 平成26年度予算の件」、「第5号議案 役員の改選」が賛成多数で可決され、15時に閉会しました。

当日の議案の主な内容について、お知らせします。

○第3号議案：平成26年度活動計画(案)

当NPOは創設来10年が経過し、多くの実績を残しながら成長を遂げた。今後さらなる発展をするに当たり、一度創設時の基本に立返り組織を活性化することによって、さらなる積極的な事業展開を図りたいと考える。

当NPOの特徴として会員が幅広い地域にいる全国組織であるということがある。しかし、その特徴はあまり生かされず、組織の力が十分に発揮されていないのが現状である。本年度は地域の特色を生かすとともに、連携を強化して活動の成果をあげていきたい。

I. 活動

活動は、大きくは次の4項目とする。

- (Ⅰ)市民参加・市民協働によるまちづくりと連携の推進・支援
- (Ⅱ)緑化・芝生化の推進
- (Ⅲ)出前講座・講演・指導
- (Ⅳ)防災活動と液状化対策活動

実施に当たっては、具体的には次のような内容となる。

1. 市民参加、まちづくり

1)市民参加・市民協働による地域活動

創立以来進めてきた合意形成・市民参加に対し、さらに地域の状況に合い密着した活動を定着させる。ここでは、行政、市民団体、企業、市民との連携を強化するとともに組織内の連携も強化する。

2)橋百選

U&C掲載を岩手、石川、山口、愛媛各県順に引き続き行う。但し第30号は「世界の吊橋」の特集を行う。ここでは各地域会員の参加・協力が求められる。

3)土木学会発建設系NPO中間支援組織との連携

土木学会建設系NPO連絡協議会は、本年度は正式な中間支援組織「シビルNPO連携プラットフォーム」として活動を開始する。建設、まちづくりを活動の主体とする当NPOはこの組織と連携を深めるとともに、各地域のメンバーも連携を持って活動する。

2. 緑化・芝生化の推進

当NPOの技術、ノウハウ、実績を活かして、校庭・園庭の芝生化を教育環境の改善や地域コミュニティの推進の立場に立って活動する。可能な限り全国展開を行なう。関東地区でも活動を一層強化する。

3. 出前講座・講演・指導

- ・ 現在内部のセミナーを通じて基礎固めをしている出前講座、講演、指導を、本来の対外的な活動として具体化し軌道に乗せる。大学との連携なども積極的に進める。
- ・ 他団体、大学、企業との協力による外部講師の活用により、メニューを強化して対応の幅を広げる。また、本部と地域との協力関係を重視する。

4. 防災活動と液状化対策活動

1)液状化対策プロジェクト

状化と液状化災害の減災に関する調査・研究を行いながらその共通認識を持ち、液状化災害の減災に向

けて自治体、地域住民へ情報・知見の提供を行うとともに、関係機関に液状化災害の減災について提言を行う。また、昨年度に引続き船橋市市民公益活動公募型支援事業を受け、災害の実態調査・分析等を重点的に行う。

2) 防災支援活動

液状化問題を核にし、地域における防災活動を支援する。また、建設技術の立場およびNPOの立場から、防災を初めとする新たなまちづくりの調査、計画、提案、具体的な事業などを行う。

5. 情報提供・教育活動

1) 情報提供

- ・ ホームページ、ブログ、フェイスブックなどを通じて、防災・災害支援、まちづくり、公共事業などに関する情報提供を行う。また、内部の運営にもその力を生かし特に地域の会員相互のコミュニケーション促進に活用する。
- ・ 建設関連NPOのポータルサイト構築を進める。

2) 教育

- ・ 公開講座の推進
- ・ 活動関連セミナーとして、当NPOの日常的な活動を生かす形で行なう。

II. 体制、運営

- ・ 内規の整備など組織としての運営の体制を確立する。
- ・ 活動方法や会議の運営方法の改善、会報の強化等により組織の活性化、特に地域活動の充実を図る。

○第5号議案: 役員の改選

理事	小林明 比奈地信雄(事務局長) 三井信之 (退任)増本祐一	佐々木順一 廣田治(新任) 皆川勝(新任)	花村義久(理事長) 堀内徹 森川勝仁(副理事長)
監事	日浦明(新任) (退任)池畑輝男		

退任された理事、監事の皆さん長い間、ご苦勞様でした。新任の方々には、これからよろしくお願いします。なお、各部会の責任者の方は次のとおりです。

部会長・支部長	市民参加部会 緑地芝生部会 教育部会 防災・液状化対策部会 情報部会 西日本支部	斎藤清 森川勝仁、廣田治 馬場先勝弘 池畑輝男 (廣田治) 小林明 森川勝仁
---------	---	---

以上

平成 23 年 12 月設立した液状化対策プロジェクトは、その設立趣旨に沿って会議を重ね、平成 24 年その成果を具現化するモデル地域として船橋市に決定し、船橋市市民公益活動公募型支援事業(以下市民公益事業と云う)に応募するため当 NPO に「船橋防災関連プロジェクトチーム」(代表花村義久)を発足し船橋市の市民団体として平成 24 年 11 月船橋市の市民公益事業に応募、平成 25 年 1 月公開公募審査会を経て平成 25 年 3 月に採択されました。

この事業は、平成 23 年 3 月 11 日発生した東日本大震災により、東京湾岸地域の埋め立てにより造成された地盤や内陸部の河川周辺の埋め立て地盤において都市施設(インフラ)及び家屋の全壊・半壊等の液状化被害が発生しました。船橋市は周辺の千葉市・習志野市や浦安市に比べ被害の件数こそ少なかったですが、被害に遭われた住民の方々は何故自分達の地域だけとかわかと思われた事でしょう。

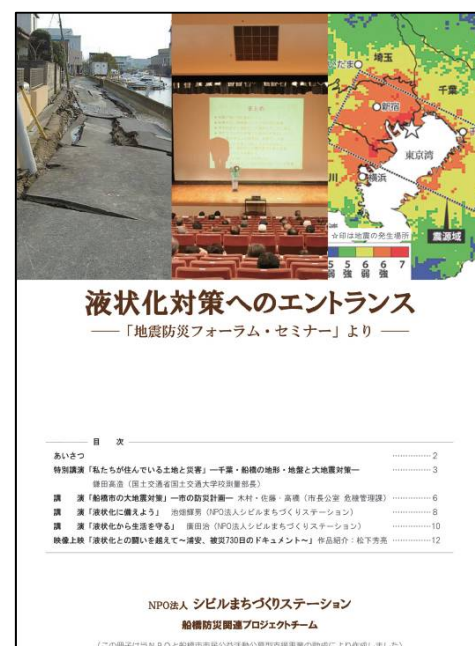
地震による液状化被害を少なくするため、住民の方々に地震によって起こる地盤の液状化について理解して頂くことが重要でとの見地から、液状化についての諸課題等と、きっかけ喚起として次の事項を広報活動事業として実施しました。(事業費は船橋市 8 割・当 NPO 2 割)

- (1) 広報パンフレット「地震による液状化に備えよう」の作成・配布
- (2) 防災フォーラム 地震防災フォーラム in 船橋 平成 25 年 9 月 14 日(土)船橋市勤労者市民センター
 - ◇ 基調講演 私たちの住んでいる土地と災害 国土交通大学測量部長 鎌田高造
 - ◇ 船橋市の大地震対策―市の防災計画― 船橋市危機管理課 木村外 1 名
 - ◇ 液状化から生活を守る 当 NPO・液状化対策プロジェクト会員 廣田
- (3) 地震防災セミナー
 - ◆平成 25 年 10 月 26 日(土) 船橋市浜町公民館
 - ◇ 液状化に備えよう、液状化から生活を守る 当 NPO・液状化対策プロジェクト会員(池畑・廣田)
 - ◇ 映像「液状化との闘いを越えて～浦安、被災 730 日のドキュメント～」
当 NPO・液状化対策プロジェクト会員(松下)
 - ◆平成 25 年 12 月 14 日(土) 船橋市中央公民館
 - ◇ 船橋市の大地震対策―市の防災計画、津波対策等―船橋市危機管理課 木村
 - ◇ 地震による液状化に備えよう 当 NPO・液状化対策プロジェクト会員(廣田)
 - ◇ 映像「液状化との闘いを越えて～浦安、被災 730 日のドキュメント～」
当 NPO・液状化対策プロジェクト会員(松下)
- (4) 液状化対策へのエントランス ―「地震防災フォーラム・セミナー」より
サマリノート作成・配布(右図に表紙のみ掲載します)

報告に当たって最後に

上記活動の他定例会議を都内で、具体的活動を船橋市市民活動センターを拠点として会議及び資料作成・資料の製本・チラシのコピー作業をしました。特に船橋市在住の会員の方々には、会場の準備・チラシの配布・液状化実験装置制作など、わが街を「なんとか」して地震災害から街を守る意気込みが窺え、市民の皆さんに、先ず地震液状化の知識向上が大切との認識に立ってフォーラム、セミナーの開催前にチラシの戸別配布千数百戸など地震防災(液状化を含む)フォーラム、セミナーに参加できなかった市民の方々も関心を頂いたと総括し報告とします。

以 上





幼稚園庭芝生化支援指導 （兵庫県伊丹市）



小学校芝生維持会議 ～維持管理計画の協議～ （奈良県桜井市）



緑化出前講座 ～公園芝生の維持管理～ （神戸市須磨区自治会）



合同芝生維持管理指導（兵庫県三田市幼稚園）



校庭芝生校連絡報告協議会（奈良県）



幼稚園スプリンクラー増設工事（奈良県香芝市）



校庭・園庭の芝生化は、児童の健全な心と体を育む環境を作るために推進しています。

西日本支部では、約10年前から校庭の芝生化事業を積極的に取り組み活動の主体的事業になっています。

関東では、平成22年から約5年にわたり船橋芝生化推進プロジェクト“GPP”(GrassPromotionProject)を発足し、当 NPO と連携して活動を行っています。

平成 22・23 年からは、船橋市の御滝中学、旭中学において学校側と協議の上校庭周辺や中庭等で芝生化を推進し、現在も継続しています。

昨年度と今年度は「吉見光の子保育園」で園児・保護者・近隣の方々の参加によりバーベキューを行い和気あいあいと芝生活動を実施しています。



保護者・近隣の方々によるバーベキュー



園・園児・保護者 苗の植付け



平成25年度実施の前庭芝生

平成 26 年度は船橋「健伸幼稚園」においても芝生化を行いました。また、千葉県立保健医療大学の実習生を迎えて体験フェアーを実施し、学生とは作業前後に意見交換等を行いました。なお、学生の参加は平成 24 年度から継続して行っています。



学生との意見交換



現在、芝生は非常に順調に育成しています。

第 18 回目の千葉県最大の環境イベント「エコメッセ 2013in ちば」が平成 25 年 9 月 28 日(土)10:00～16:00、幕張メッセ国際会議場にて開催され、この会場のブースに「シビルまちづくりステーション」として出展致しました。

エコメッセへの出展は 137 団体で、その内訳は市民・大学が 80 団体、企業が 37 団体、行政が 20 団体の参加があり、来場者は 10,200 人に成りました。

主な内容は各団体の交流する場「環境協働創造市」、大学を中心とした環境保全活動紹介「スクール環境メッセ」、環境パネルディスカッション「千葉から広げる自然エネルギー」、環境アニメ上映「嫌われ者のラス」、環境クイズやビンゴゲーム「エコステージ」、千葉物産展等、屋外では車メーカーによる「エコカー展示・試乗会」、運転シュミレーションによる運転技能検定「ちとらくん」が開催されました。



当「シビルまちづくりステーション」のブースは芝生の普及と液状化対策の活動紹介やパンフレットの配布を行いました。



6、橋百選：都道府県別に纏めた橋群・更に充実させましょう！

「愛され、楽しめる地域の橋、そして技術的に特異な橋の紹介も…」

日浦 明

NPO が設立された当初からの企画事業である「橋百選」は、多くの仲間や応募者らの推奨で写真や情報提供を頂き前回の《石川県版》で 28 回となりました。関係者への感謝と共にこれから全国 47 編を完結するまで継続せねば！との新たな決意です。

殊にこの橋百選に掲載頂いている株式会社フォーラムエイトの広報誌「Up and Coming」は、土木建築等のソフト関連で豊富な先端技術データを満載する素晴らしい刊行本です。編集責任者の太田女史には何時も原稿の締切を催促されながらも懇切丁寧な指導を頂いています。

「フォーラムエイトの広報誌として毎月 1 万部以上を発行し、ユーザーや取引先にお届けしています。中でも「橋百選」は多くの方から面白いとの評判を頂き、人気の高い連載です。担当として執筆者の皆さんと遣り取りしながらの紙面作りは毎回楽しみです。」とその太田さんからとても嬉しい編集や纏めに励みとなるコメントを頂いています。

この「橋百選」は全国制覇に向けて、ほぼ折り返し点に辿り着きました。そこで来年の「U&C:新年号」では、30 回の節目として日本の技術が活かされ、施工に関与した＝「世界の吊橋」を特集として纏める予定です。どうぞお楽しみに…

道路や鉄道は交通インフラであり、人間社会にとっては必要不可欠な施設です。なかでも構造物＝橋は「技術」と「美」が複合された《技術美》が注目されています。その橋梁建設に携わった技術者達は、その橋に関わる苦労した経験をも持ちながら楽しくも淡い思い出やその橋への愛着と、それが社会に役立っていることに誇りを持ち続けているのです。

何時までも橋大好きを自負しながら、現役引退した橋男達の中には、橋への想いや郷愁を絵画に託したり、実物模型制作に精出している仲間がいます。最近、絵画展等に出向き、それらをデジカメに収めましたので、その一部を紹介し、近い将来、このような作品で＜橋百選＞を纏めること夢見ています。

橋の絵画



『アビニオン橋』
宮川千助（前・
当 NPO 会員）
画
今春の東京都
美術館「第 59 回
新世紀展」にて



『震 7』
羽子岡爾朗画
大きさ F100*2 の大作
阪神大震災で壊れた
橋、自然エネルギーの
凄さや被災に対する無
念さを表す力作（'14
銀座の個展にて）



『虹たつ鳴門海峡』
鶴田貞男画
第 59 回新世紀展：
※現地の大鳴門橋架橋
記念館には当 NPO 会員
佐藤健氏監修の「日本、
世界の名橋」の写真が展
示されています。
訪ねた折は必見です！



『清州橋』
友田 稔画
都内「森下文化センタ
ー」に常時掲示してい
る。



此花大橋(大阪市)=縮尺 1/250 《自碇式単弦吊橋で現場も制作も至難》
坂井正尚作(習志野市在住)、現場責任者で携わった橋を寸分通り制作し自宅に
飾り、我が子のように愛する毎日だそう…

上から ①荒川ダム 2号橋(山梨県) ②深戸橋梁(新潟県) ③月ヶ瀬橋(奈良県))
④小国川橋梁と架設トラス桁(山形県) ⑤大輪橋(静岡県)
縮尺 1/100

なお、この橋百選はバックナンバーも含めてフォーラムエイト社のホームページから閲覧することが可能です。

橋百選のページ <http://www.forum8.co.jp/topic/hashi0.htm>[illegible]

出前講座(趣旨については以前の会報をご覧ください)に関して、7月下旬に会員の皆様に、周りの技術者の方にも声を掛けていただいて、「日頃悩んでいること、相談したいこと」や社内や外部の人に「いまさら聞きたいこと」など「出前講座(講習会)」のテーマについて要望を寄せていただくようメールでお願いしました。

テーマについて制限はありません。会員で対応できないテーマについては、大学の先生方をお願いすることも考えられますので、遠慮なく提案していただくようお願いいたします。

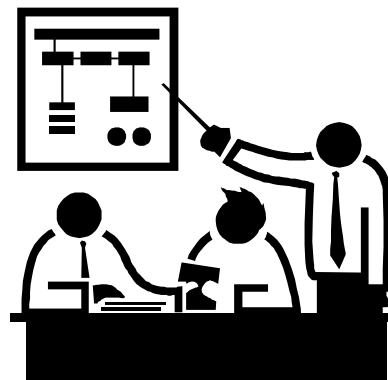
我われ会員が修得した技術を若手の技術者に引き継いでもらうことは、非常に重要なことと考えています。また、各所で開催されている「技術講習会」に比べて費用のかからない、効率の良い講座を開催できるものと確信しています。

ご要望については随時受け付けていますので、下記までお寄せください。

また、提供(講義)出来るテーマについてもお知らせ頂ければ幸いです。

ご協力のほどよろしくお願いします。

メールアドレス katsu-babasaki@cnc.jp



個々の NPO は、規模は大きくなくても専門性が高いという性格があるが NPO の集団としてみれば、その多方面の分野と広い地域的な広がりを持っています。NPO が単体で機能するより、連携により NPO が集団的に機能した時に大きな力を発揮することが期待されます。

そのような趣旨での先駆的な試みは、花村さんおよび比奈地さんが中心となったシビル NPO 連絡協議会の設立でした。当時の会則によれば、目的は、「社会基盤整備・保全や環境等国づくり・まちづくりに関わる NPO 法人が、互いに連携して知恵や情報を交換し、また社会および行政に働きかけることによって、社会貢献を行うとともに NPO 活動の活性化と発展を図ること」でした。主な活動は、年次のシンポジウムであり、これを通じて様々な建設系・シビル系を中心とした NPO の代表が集い、NPO のあり方について毎月世話人会を開催して、将来の NPO のあり方について議論を重ねました。このなかでは、連絡協議会を土木学会内部の組織としてしっかり位置づけるべきとの根強い意見がありました。

一方、土木学会内部では、教育企画・人材育成委員会において成熟シビル小委員会が設置され、そのなかでは、超高齢化社会を迎えて大量に生じるシニアエンジニアの退職に対して、その知見を社会の発展に活かしてゆくという視点から検討が行われた。そのなかから、「新しい公共」に対応するシビルエンジニアの活動として、非営利の活動を推進してゆく中間支援組織を設立する方向へと検討が進み、その準備のため(仮称)建設系 NPO 連絡協議会が設置されました。ここには花村さん、比奈地さん、ならびに皆川が参加しました。

このような土木学会の NPO に関する動きに対して、シビル NPO 連絡協議会では、将来のあり方が議論されました。その中で、土木学会の外部に協議会を持つことの限界が強く認識され、連絡会議を発展的解散し、学会の NPO に関する活動と統合することが多くにメンバーの意思となりました。そして、シビル NPO 連絡協議会は発展的に解消し、両組織に参加していた上記の 3 名は、下記の間支援組織まで一貫して主要メンバーとして参画することになりました。

中間支援組織の設置目的は、NPO の抱えるさまざまな問題を総括的に取り上げ、全体の発展のための道を切り拓くことにあり、地域連携の推進は最も重要な目的の一つです。全国に広がる NPO がそれぞれの地域で連携することにより、地域固有の問題を解決したり、地理的・時間的メリットを生かして活動目的を達成したり、あるいは新たな可能性を生み出したりすることを可能にするものです。

(仮称)建設系 NPO 連絡協議会では、花村さんとその後皆川によって、地域の NPO の連携に関して検討が進められました。その中で、重要な活動として以下の 3 項目があげられました。

- ・会員の日常的な NPO 活動に対する支援
- ・共通分野の全国レベルのコーディネーション
- ・地域行事、社会貢献活動等の支援

地域の NPO が活動するに当たっては、会員間の身近で日常的な情報交換や相互協力が重要であり、その活動は、会員 NPO 間の連携から、外部の NPO、さらには地元の自治体、住民・市民団体、大学・企業との連携へと発展していくこととなります。すなわち、以下のような項目が対象となります。

- ・会員の相互協力、地域中間支援組織的活動による共通課題の解決
- ・地域における NPO 連携、その他各主体との連携

地域内で解決できない事業や課題を他地域との連携により道が開けるケースが生じることは大いに予想されます。また、地域を超えて NPO が協力して事業遂行を行う過程で、新たなネットワークが形成されることも多いと思われます。一方、ある地域での活動成果が一つのモデルケースとして他地域で生かされ、ビジネスモデルとして各地域で採用されることも期待できます。地域間連携では次のようなことが、典型的な形として想定されます。

- ・人材交流等、全国展開ネットワーク形成
- ・成功事例の水平展開

そして、本年の 8 月 1 日、このような経過を経て、シビル NPO 連携プラットフォーム(略称:CNCP)がいよいよ設立されました。山本卓朗元土木学会会長を会長としてお迎えし、副会長には花村さんが就任されました。CNCP では、サービス提供部門、事業化推進部門、地域活動推進部門が設けられ、地域活動推進部門の担当常務理事には皆川が選出されました。地域活動推進部門は、それぞれの会員 NPO が、同地域の他の NPO、全国の NPO、地域の自治体や有識者と、有効な連携が実現できるよう推進・支援活動をしてゆく部門です。その際、各会員 NPO が組織として、あるいはそこに参画されている個人がどのような連携の在り方を望まれているかをなるべく正確に把握し、CNCP 本部としての活動に活かしてゆきたいと思い、アンケートを実施し、それを踏まえた活動へと進んでゆきたいと思っています。本 NPO としましても、ぜひアクティブな NPO のひとつとして、シビル NPO 全体の活動の一層の発展に向けた貢献をしてゆくではありませんか。

シビル NPO 連携プラットフォームHP <http://npo-cnecp.org/>

特定非営利活動法人
シビルNPO連携プラットフォーム

facebook

会員一覧 会員検索

シビルNPO連携プラットフォーム
会員募集中

この組織は土木学会創立100周年記念事業の一環として設立されたもので、幅広い活動を通じて建設系NPO法人の基盤強化をはかり、行政や企業、教育、研究機関、そして地域・市民組織とのパートナーシップを通じて、より良い地域社会の構築を目指すものです。

トップページ
Top Page

CNCPについて
About CNCP

代表挨拶

設立趣旨

定款・規定

組織・役員

会員一覧

運営会議情報

活動トピックス
Activity Topics

主な活動記録

CNCPアーカイブ

CNCP通信

事業内容
Business Lines

サービス提供部門

活動支援
情報交流
広報・提言
教育・行事

地域活動推進部門

事業化推進部門

その他の活動

お問い合わせ

Information お知らせ

- 2014/8/22
シビルNPO連携プラットフォームのフェイスブックページを立ち上げました。HPの上にありますリンク先が(仮称)建設系NPO連絡協議会のフェイスブックページになっていましたが、シビルNPO連携プラットフォームのフェイスブックページに変更しましたので、お知らせします。こちらもご覧ください。
- 2014/8/22
土木学会全国大会研究討論会で「ーグローバル(GLOCAL)な視点で見直そう、土木分野におけるNPO・NGO活動をー」と題してパネルディスカッションを9月10日(水)に大阪で行います。準備会の後継組織のシビルNPO推進小委員会と土木計画学研究委員会の共催です。会場が決まりましたので再掲します。「[案内](#)」会場は大阪ですが、多くの皆さんの参加をお願いします。
- 2014/8/22
会員NPOが主催する放談会の案内です。
SLIM放談会9月11日(木) 15:10~17:30 ちよだプラットフォームスクエア「[案内](#)」
- 2014/8/20
シビルNPO連携プラットフォームのパンフレット電子版をアーカイブに掲載しました。ご利用になる場合は短辺として両面コピーをして三つ折りにして使ってください。1,000部印刷中で、事務所に保管する予定です。
- 2014/8/16
8月12日(火)に第5回運営会議が開催されました。議事録と資料はHPの会員専用ページに掲載しましたのでご覧ください。
- 2014/8/13
CNCP通信Vol.4が発行されました。「[CNCP通信Vol.4](#)」
- 2014/8/8
8月1日に開催されたシビルNPO連携プラットフォームの設立記念パネルディスカッションと「共創プラットフォーム事業化研究会」の記者説明の新聞記事が出ましたのでプレスリリースに掲載しました。
- 2014/8/4
「共創プラットフォーム事業化研究会」を発足致します。説明会参加ご希望の企業は添付資料をご覧ください。「[説明会のご案内](#)」
- 2014/8/4
シビルNPO連携プラットフォームの設立記念パネルディスカッションが8月1日に開催されました。報告は「主な活動記録」に掲載しました。「[報告](#)」
- 2014/7/29
シビルNPO連携プラットフォームが東京都から、7月25日付けでNPO法人として認証されました。8月1に法務局に登録します。
- 2014/7/18
会員NPOが主催するフォーラムの案内です。
電線のない美しく安全なまちづくりフォーラム8月27日(水) 15:00~17:40 ダイワハウス大阪ビル2階「[案内](#)」
- 2014/7/16
会員NPOが主催するセミナーの案内です。
CSN創立10周年記念セミナー 10月11日(土) 15:00~17:00 オリンピック記念青少年総合センター「[案内](#)」
- 2014/5/19

私とコンピュータの出会いは、学生時代にコンピュータプログラミングの実習で IBM の汎用機のプログラムを書いたのが初めてでした。それから 30 数年間、コンピュータにより生活の糧を得てきました。そんな私に『「IT の活用」と言うタイトルで原稿を書け』と言う指令が来ました。この 30 数年間のコンピュータとの関わり合いを書いてあまり面白くありませんし、失敗だけでもとても紙面が足りませんので、多少は皆さんの参考になると思われる現在使っているコンピュータ(モバイル端末を含む)の用途や使用感やら書いてみたいと思います。

右の写真は、私が仕事とプライベート・趣味で使用している「コンピュータ」です。左端の一番大きいのはすぐにわかりますね。

WindowsPC①です。その右隣の 2 番目に大きいのが NEXUS7②と言う Android タブレットです。その右上方の黒いのが iPhone ③、その下が、まだ珍しいですが WindowsPhone④です。

右端の 2 つはおまけです。青いのが SONY のゲーム機

PSPVITA⑤です。今のゲーム機はインターネットに繋がりますので、HP 閲覧、E メール送受信なんて言うのは普通にできます。基盤むきだしの機械は、RaspberryPi⑥というボードコンピュータで、キーボード、マウスとディスプレイを繋げば、LINUX という基本ソフトが動きます。30 年前のパソコンよりよっぽどパワフルですが、これも趣味の電子工作で遊んでいます。

まず、これらの機械をどうやって使い分けているのか、ということですが、当然 WindowsPC①がメインマシーンで、これでワードやエクセルを使うようなコンテンツを作成する仕事をすべて行っています。

出張や終日社外で仕事の場合は、この WindowsPC①は 800g 程度なのでこれを持ち出し、インターネット接続には、メインの携帯電話である iPhone③のインターネット接続の共有機能を利用します(これをテザリングと言います)。短時間の外出の場合には、NEXUS7②だけ持ち出します。この NEXUS7②ですが、インターネットイニシアチブジャパン(IIJ)という会社の通信サービスを利用しており、NEXUS7 購入費 4 万円、通信費 972 円/月です。1ヶ月の通信容量が 1GB に制限されますが、月～金まで 1 時間/日の利用であれば十分のように思います。スケジュール、メール、WEB 閲覧等問題なく行えます。携帯電話より画面が大きいので老眼の身にはかなり楽です。また、たくさんお酒を飲む予定があるときなどは iPhone だけにしています。PC 用アドレスを含めてメールの送受信・添付ファイルの閲覧まで全部できますので何とかなります。

WindowsPhone④は仕事柄テスト用に海外モデルを通販で買ったもので、日本国内で型式認定を受けていない機械なので、法律違反になります。WindowsPhone④は電話機用の Windows を搭載したスマートフォンです。スマートフォンとしての機能は十分ですが、アプリが少ないため、今買っても(国内では合法的に買うことは不可能ですが)メリットはないと思います。例えば、乗換案内のアプリがありません。WEB サイトにブラウザで繋いで検索しなければなりませんのでかなり面倒です。

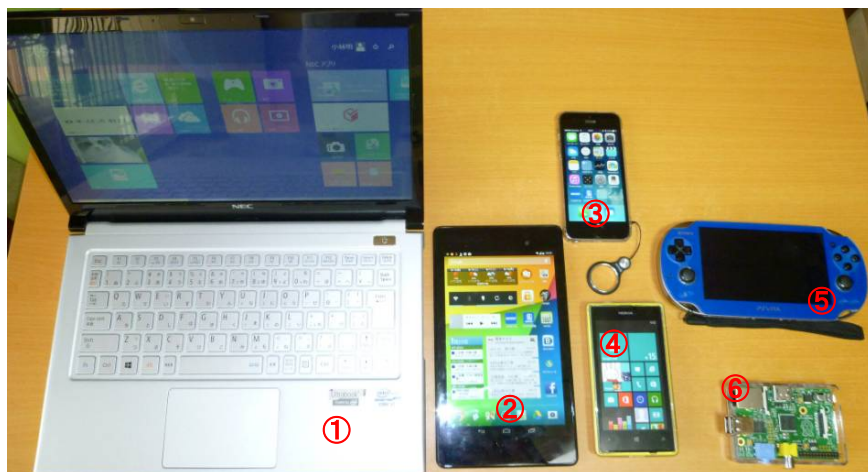
最後に本文中で取り上げた製品やサービスへのリンクを以下に示します。

800g の軽い PC http://www.necdirect.jp/shop/note/lavie/z/index.html?sc_cid=jp:sem:B4MKkt

NEXUS7 <http://www.google.co.jp/nexus/7/>

IIJ の通信サービス <https://www.iijmio.jp/>

WindowsPhone <http://www.windowsphone.com/ja-jp>



編集にあたって

池田昭一

今年度初めての会報を、発行することができました。投稿された方には期限が迫っている中にご協力いただき、また小林理事には編集にご尽力いただき感謝いたします。さて、今年度の会報につきましては、組織活性化の一環として、年4回の発行が目標となっています。といっても、いきなり大上段に構えると、竜頭蛇尾に終わる恐れもあります。どちらかといえば初めはゆっくり、終われば・・・と行きたいところですが、いずれにしろ発行には皆様の協力が必要ですので、今後ともよろしくお願いします。今回は期限の関係で本部以外の方の投稿が少なくなりましたが、次号は各地の方の投稿を中心にしたいと考えていますので、ご協力をお願いします。

話が代わりますが、私は今年度から当NPOに入会し、事務局を手伝うこととなりましたので、よろしくお願いします。さて、軍隊というと皆さん何を思い浮かべるでしょうか。華やかな戦闘場面でしょうか。悲惨な戦場光景でしょうか。しかし古今東西強い軍隊というものは、いわゆる後方部門（ロジスティクス）が充実しているものです。これを疎かにする軍隊（リーダー）はいずれ負けます。このロジスティクスという概念は現代でも物流管理の意味で使われていますが、本来はもっと広い意味です。組織は後方部門が充実して始めて花形である実動部門が充分働けると思います。そのためにできることは行っていきたいと思っていますので、今後ともご協力をお願いします。

発行者 NPO 法人シビルまちづくりステーション

東京都豊島区南池袋 2-12-8 第3中野ビル

T E L 03-3987-6646 FAX 03-3989-0062 Eメール info@itstation.jp

ホームページ <http://www.itstation.jp>